

麦わら帽子

乾いた道の上 黒く短い影
見下ろす足元に てるてる坊主
目の上に見えてる 麦わら帽子に
時折ふく風と 夏の香りが

心配事一つもない
太陽に包まれながら

忘れていたあの頃の
戻らない時間思い出す

畑の向こうの 一つ南の道
帽子の底を下げ あごを上げて
黒目を下にして 遠くを見る
元気に網を振る 男の子がいる

悩み事ほとんどなく
足取りも軽く見える

忘れていたあの頃の
自分の姿映してる

顎紐無くした 麦わら帽子
ふく風に持って行かれないよう
てっぺん抑えた手に感じる風

かすかな記憶の 遠くのまち
帽子の影の上 後ろからそっと
近寄る日傘の 影が覆ってくる
安心な香りに 包まれてくる

忘れていたあの頃の
戻らない時間思い出す

忘れていたあの頃の
自分の姿映してる